

平成27年第2回八雲町議会定例会会議録（第2号）

平成27年6月9日

○議事日程

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
日程第 2 一般質問

○出席議員（16名）

1番	佐藤智子君	2番	横田喜世志君
3番	安藤辰行君	4番	岡島敬君
5番	三澤公雄君	6番	掛村和男君
7番	田中裕君	8番	赤井睦美君
9番	牧野仁君	10番	大久保建一君
11番	宮本雅晴君	副議長	12番 千葉隆君
13番	岡田修明君		14番 黒島竹満君
15番	斎藤實君	議長	16番 能登谷正人君

○欠席議員（0名）

○出席説明員

町長	岩村克詔君	副町長	伊瀬司君
副町長	植杉俊克君	総務課長	城近眞君
企画振興課長 兼行財政改革推進室長	萬谷俊美君	併選挙管理委員会事務局長 情報政策室長 兼新幹線推進室長	吉田邦夫君
財務課長 兼収納対策室長	鈴木敏秋君	総合病院建設企画課参事 会計管理者 兼会計課長	中野勝弘君
住民生活課長	山田耕三君	保健福祉課長	三澤聡君
農林課長 併農業委員会事務局長	加藤貴久君	水産課長	横山隆久君
商工観光労政課長	岡島建夫君	商工観光労政課参事	藤牧直人君
建設課長	佐藤隆雄君	公園緑地推進室長	半谷広志君
環境水道課長	馬着修一君	落部支所長	柴田幸一君
教育長	瀧澤誠君	学校教育課長	荻本和男君
社会教育課長 兼図書館長		体育課長	浅井敏彦君
郷土資料館長	足立直人君		
町史編さん室長			
学校給食センター所長	小栗由美子君	学校教育課参事	本庄伯幸君
監査委員	千田健悦君	総合病院事務長	齋藤眞弘君
総合病院管理課長	成田耕治君	総合病院医事課長	五十川厚子君
総合病院建設企画課長	沢野治君	消防長	大泉達雄君
八雲消防署長	桜井功一君	八雲消防署管理課長	大淵聡君
八雲消防署消防課長	伊丸岡徹君		

【熊石総合支所・熊石教育事務所・熊石消防署・熊石国保病院】

地域振興課長	牧茂樹君	住民サービス課長	前小屋忠信君
産業課長	田村春夫君	熊石教育事務所長	野口義人君
海洋深層水推進室長		熊石国保病院事務長	桂川芳信君
熊石消防署長	手塚剛君		

○出席事務局職員

事務局長	鈴木明美君	併議会事務局次長	岡島広幸君
併監査委員事務局長		監査委員事務局次長	
庶務係長	吉田正樹君		
併監査委員事務局監査係			

[開議 午前10時00分]

◎ 開議宣告

○議長（能登谷正人君） 本日の出席議員は16名です。

よって、定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

◎ 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（能登谷正人君） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員に佐藤智子さんと田中裕君を指名いたします。

◎ 日程第2 一般質問

○議長（能登谷正人君） 日程第2 一般質問を行います。

質問は昨日に引き続き、あらかじめ定められた順により、各々45分以内に制限してこれを許します。

それでは、三澤公雄君の質問を許します。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） おはようございます。くじを引く人がかわったので、2日目だけど1発目でした。まず、今日は2つ質問させていただきます。

1つ目、人材の活用にどう取り組むのか。人口減少、それに伴う公共施設のあり方や施策の優先順位など、色々な知恵を集めて考える事柄だと思いますが、町内の人材活用は未だうまくいっていないように私には見えます。協働と呼びかけて久しいです。パブリックコメントも始まっています。参加状況はどうでしょうか。活況になる決め手を持っていますか。町内の人材活用を見つめ直すべきだと思いますが、いかがでしょうか。お考えをお聞きします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは三澤議員のご質問にお答えいたします。地方分権が進む中、町がまちづくりを進める上で、今まで以上に情報の共有や町民参加が求められていくことから、平成22年4月より八雲町自治基本条例を制定し基本的なルールを定め、まちづくりを進めているところでございます。

条例の中では情報共有を基本として、情報提供、説明責任、情報公開を的確にするとともに、町民参加と協働の推進を明確に規定しています。町が策定するさまざまな計画や施策づくりにおいて、各種審議会等の委員を公募することや審議会開催の周知による会議の公開、議事録の公表、さらには必要に応じて意見交換会やアンケート調査を実施するとと

もに、町民意見の公募を実施しているところでございます。条例の制定により、広く町民の関心のある事案や会議には自由に参加できる仕組みが確立されたものと考えているところであり、条例が制定された平成 22 年度、平成 26 年度と比較してみますと、各種審議会の委員公募枠が増加していると共に公募委員数も増加しております。会議の開催周知が徹底されていることや、それに伴い傍聴者も増加をしております。また、意見交換会やパブリックコメントの参加状況を見ますと、町民が関心のあるもの、案件については数多くの参加が得られている一方、全く関心ない案件等には参加者が少ない状況となっております。

このような状況から、自治基本条例を守り育てる町民自治推進委員会からは、町民への条例の存在や浸透度が低い状況から色んな意見をいただいております。各種審議会委員の選定にあっては固定化、硬直化にならない配慮や、町民参加に限られた一部の人の活動に偏っており、町民の参加意識の促進が図られるよう地道な啓発活動や情報発信の手段の工夫を求められております。町といたしましても広報紙や町ホームページなどの周知媒体を有効に活用することはもちろん、町民の関心や興味がまちづくりに向く努力をしていかなければならないと思っております。

いずれにいたしましても、さまざまな立場や場面で意見を述べることで、まちづくりへの参加であることの認識を町民の方々に持っていただけるよう取り組み、議員各位のご意見を頂戴しながら検討してまいりたいと考えております。よろしくお願いをいたします。

○5 番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5 番（三澤公雄君） 町長の現状の認識も私とほぼ同じで、まだ満足してない、もっと町民に参加してほしいということだと思います。26 年の第 4 回の定例会で何人かの議員が地方創生総合戦略の質問をしましたが、これ期限を切られて、作った自治体に国が交付税を交付するという方法ですけども。こういうものが出て来たとき、そして、これまで町の運営にとって、とても大切な総合計画のつくり方なんか、今までのやり方で人の関心が集まらなかった、人集め、町民の参加が進まなかったっていうときに、またぞろこの地方創生総合戦略ってものを早く作りなさいと言って。

僕はこれをいい機会にして欲しいんですよ。スケジュールが決まった中で、今までのやり方の延長もしくは行政だけで計画をつくって、交付税目当てというかね、そういうもので終わってしまったも、もったいないなと思うので。ぜひここはですね、関係各課に頑張ってもらって町民、人材の掘り起こしをしてもらいたい。総合計画もそうですが、今回の地方創生の総合戦略も、出来上がったものを国にどう評価してもらうかということが金銭的には大事かもしれませんが、町の運営としては、それを提出するまでに至る過程、つまりどれだけの町民が参加し、出てきた意見を行政や我々議会もどうそれを消化したというか、判断していくかという、町の中で政策を磨いていく過程というのは非常に大切だと思うんです。

そういう機会に今、生かすチャンスだと思うのですが、いかんせん、どうやったら人材が集まるのかというところに、暗礁に乗り上げているところだと思いますけれど。前回の

26 年第 4 回の定例会で、策定に当たっては横の連携を持ちながらアイデアを十分出すようにという担当課長の答弁もございました。スケジュールが迫っていることでございますけれども、私の問題提起と合わせてですね、その辺の進捗状況を、一般論として町長のお答えの中で、まだまだ現状には満足しないことは十分にわかりましたけれども、いざもう締め切りが決まっている中で、動き出しているこのことに対して、人材の活用がどこまで進んでいるのか。どういうアイデアを、横の連携も含めてですね、とっていくのかということ、を、まず改めてお伺いいたします。

○企画振興課長（萬谷俊美君） 議長、企画振興課長。

○議長（能登谷正人君） 企画振興課長。

○企画振興課長（萬谷俊美君） ただいまのご質問でございますけれども、総合戦略をつくるに当たってですね、どのような連携をとって進めていくのか、その状況ということだと捉えております。まず、総合戦略を策定するに当たりまして、庁舎内に町長を筆頭とする対策本部を設置しておりまして、その下にワーキンググループの専門部会を 3 つ設けております。戦略策定に当たっての基本的な項目がございますので、その項目に沿って関係課職員を構成員として施策を検討するという仕組みをつくっております。職員のオリエンテーションを 5 月に開催して、総合戦略とはなんぞやという部分につきましては説明を終えているところでございます。6 月に入りまして 6 月 17、18 の 2 日間にわたりまして専門部会を開催しまして、進め方、要するにアイデアをどのように引き出すかを、八雲町の現状と課題を整理しながら、まず共通認識を持っていただくということで、2 日間日程で専門部会を開く予定で考えております。

それらを活用して各専門部会以外に若い職員の希望も募りまして、専門部会に担当でない職員も任意で募っております。数名の方が参加をすることになっております。また職員全員に対しましてアイデア募集ということで、シートの提出、要は施策の提案をしていただくということで、現在その提案を受け付けているところでございます。

また、総合戦略を推進する外部の委員会、総合開発委員会を活用して今回意見を聞いていくのですが、開発委員の方々にも意見提案をしていただくということで、今月一杯を目途に提案を受け付けているところでもございます。そういった状況で幅広く職員・町民の意見を取り入れて、総合戦略の策定を進めていくということにしております。

また、進める中ではアンケート調査を今月の中旬を目安に、町民を始め過去に八雲に住んでいた方、それと移住相談に来られた町外の方に、八雲町をどう見ているのかという部分についての内容のアンケート。それと子育てをしている 20 代から 40 歳くらいの年齢の方にも、子育ての支援に対してどういった政策を望んでいるかという部分もアンケート調査でお聞きするという予定で考えております。

それらを踏まえながら、団体との意見交換会というのも予定しながら策定を進めて 12 月を目途に素案をつくって、2 月末までに総合戦略の策定を終えたいというスケジュールで現在のところ考えております。現段階では総合戦略の策定はそのような状況で進める予定としておりますので、よろしくお伺いいたします。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） 勝手な感想ですけれども、横の連携っていうのが苦手な町だと思いますけれども、それが取って横の連携というものも取りながら、町内の団体との意見交換だとか町民へのアンケートを、今までの枠を少し飛び出して努力しているっていう感じはわかりました。

今までの総合計画の作り方も大事ですが、総合開発委員さんも頑張っていると思いますし、しかし、私先ほど言いましたように、この地方創生総合戦略を作るにあたって、もう1歩踏み出して、これをいい機会にして町民のさらなるまちづくりへの参加を促していくということ。スケジュールが決まっている中で大変かと思いますが、急がば回れっていうか、ここで人材の発掘、人材磨きをやるのが僕は将来の町にとっては非常に大切になる。合併10年を機に熊石方面も含めてですね、やはり英知を結集するというのが大事だと。それはこれからの時代が全く予測不能、これまでの行政が積み重ねてきたこととは違う背景があると。それはもちろん町の方でも認識していると思いますが、人口が減っていくよ。日本の経済全体も右肩上がりではないよと。交付税も減っていくよっていう、そういう中でどうやってまちづくりをしていくかといったら、これまでも色々議会の中から声は上げていますけれども、負担をどう分配していくか、みんなで話し合ってやっていくか。いわゆるそれは、あくまで民主主義的にやるとしたら、やはり手間をかけなきゃいけないし時間もかけなければいけない。そこにやっぱり多くの町民に集まってもらうという、もうひとつ努力が必要だと思いますよね。そこで稚拙ながら1つ考えていたことがあります。教育長、社会教育っていう八雲にとって1つの財産だと思っています。これまでいろんな人づくりやってきました。僕も若い時代に関わることが出来て、非常に自分の中では糧になったなと思っていますけれども。その社会教育の部門が、なかなかこの、本庁という表現をしていいかわかりませんが、公民館の活動だけで止まっているように思うのですよ。社会教育で人材が青年活動も含めて、生涯学習も含めて芽が出てきても、それが自分たちの好みのサークル的活動だけで終わらせてしまっているのはもったいない。若人の集いというお祭りをつくるどころまで青年団活動が発展した歴史もありますけれども、あれもそのときの盛り上がりは今も続いているかといったら決してそうではないわけですし。

思い切って教育委員会は今、学校教育大変だと思いますので、学校教育やその周辺に特化してですね、社会教育部門をこちらに移すってことはどうでしょうか。ちょっと大胆な提案ですけども。というのは社会教育部門で生涯学習も含めて、そして前回他の議員からも提案ありましたゆめ議会の関係だとか、ようするに子供たちのことですね。そこにも関わっている、そういった活動をストレートに企画もしくはそれにふさわしい課の方で把握し、交流もあるという背景が、もしあったとしたら、これまで以上にこういった戦略的なものをつくる時に声が掛けやすい。また彼らの活動に対しても、内々の好みの活動のほかにも事務局がついたりしてね、こういうことを勉強してみようかという提案をしながら、

企画振興課においてのまちづくりをどう進めていくかという部分に関しましては、先ほど町長から答弁していますように自治基本条例という基本的なまちづくりの憲法がございます。その中でこの憲法を所掌する町民自治推進委員会からはですね、先ほどの答弁の中にもありましたように、いろいろな意見もいただいております、その中の1つとして団体間の連携を深めるために意見交換、団体間とのそういう一堂に会したといいますが、協議の場を持つ必要があるだろうということで提言をされております。昨年度も一度、自治推進委員会の人方の仕切りで20団体ほどご案内をして、意見交換会を一度開催しております。また今年度においても団体との意見交換をしようということで、本年度も計画をしているところでございます。

また企画振興課としましても、まちづくりを支援する意味で団体間の連携を深めるための、団体のデータベースを構築するというところで現在取り組みを進めております。現在のところほぼ169の団体に調査票を配付しまして回収作業を進めておまして、昨年秋からやっているものですから、またこの春に団体の代表だとか、構成メンバーが変わっているということもありますので、その内容の確認を進めながら、8月くらいまでに各団体がどういう取り組みをしているのか、誰に申し込んだらいろんな活動ができるのかといった意味で、町民が気軽にいろんな活動に参加できる体制と申しますか、また団体同士が連絡をとり合っているようなイベントだとか事業を開催するときに協力体制といいますが、そういうものもお互い連絡取り合って、できる体制ができればいいのかなという観点で企画としても、そういった支援という観点で取り組みをしているところでございます。

また、先ほど教育長の方から花の首飾りの話も出ましたけれども、去年、26年度ですね花の首飾りまちづくりコンサートということで協議会の委員を町民から募集しまして、社会教育の部門と連携して運営、開催にこぎつけておりますし、本年度も引き続き開催するというところで、現在PRといいますが、チケット販売をしている状況でございます。また企画が社会教育との連携という分野でいいますと、駅前花壇の整備につきましても企画が窓口で、花いっぱい推進協議会の方と連携して花の植え付けといいますが、そういった作業の支援もしているところでございます。行政としては今後とも社会教育との連携を密にしてまちづくりを進めていければと思っています。本当に三澤議員のおっしゃるように、まちづくりは人づくりであるという観点は私も思っております。私も若い時青年団活動をしておりましたので、そういった社会教育の必要性という部分は十分理解しておりますし、そういった教育を通じた人材の育成が出来て、そういう人間がまちづくりに関与していただければというふうに思っていますので、そういった人材の育成には企画としても努力をしてまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） 横の連携って2回目の質問から言っていたに、社会教育をこっちにと言ったのは、企画、今忙しいですよ。忙しくない部署はないのかもしれませんけども。今この地方創生総合戦略をつくるというだけでも大変なところに、従来

の仕事もありますし、だから横の連携というだけだと結局、企画の方もアップアップのところ、今までのお付き合いのあまりない団体と意見交換の仕切りをするとか。だから横の連携も職員が出張して仕事をする部分も含めて、できているのかどうか僕はちょっとわかりませんが、忙しい課に必要な人材、ようするに職員を移動してやるような横の連携だといいますが、そうではないものであればちょっとどうなのかなと。今の政権が使う言葉は余り使いたくないですけど、地方創生というのは新しくつくるという意味もあると思うのですよね。これは僕はある意味失礼だなという。地方だって今までまちづくり等をやってきた自負もあるので。しかし、これを深く読むと、町のこれまでの意思決定の仕組みを革新できるのかどうか、そういうふうに読み説けば、今までのまちづくりの総合計画も含めた作り方、時代背景が変わってきた中で違うじゃないかっていうことも含まれているのかなと、そう解釈して今までのつくり方にとらわれずに新たな人材、それは主に町民ですよ。市民が参加、そこにやっぱり知恵を集めていかなきゃいけない。住民と町と我々議員とそして職員と四者で、立場、立場で責任の度合いがありますけども、責任を分かち合いながら納得して、これからの負担をどう優先順位をつけてやっていくか。場合によっては軽減できるのか。軽減できないものはこの部分はそちらに負担してもらうとか、そうしないとこれからの公共施設のあり方も含めて、今までは満遍ないまちづくりですから。

僕はこの地方創生総合戦略づくりというものを機会に、ひとつこれまでの部分を乗り越えてやってもらいたいなと。前回も何人かの議員が質問してその近辺までは行っていましたが、はっきりとした町側の姿勢が見えなかったので、改めてこういう質問の形をとりながら伺って見たのですが、何か危機感が足りないのかなって感じました。僕、敢えて締め切りが迫っている中で、その難しい人材の発掘というものを行っているのは、人間忙しい方がいい仕事ができるというか、そういう傾向にあると思います。締め切りが迫っている。大切な交付税の算定でプラスがもらえるかもしれないという部分でエンジンもあるわけですし、ぜひこれまでの活動を越えた分やってもらいたいなと思いますが。

ここでひとつ職員の方に話を移しますと、今僕、町内の人材発掘ばかり言って来ましたが、役場の中だって人材の宝庫だと思っています。その職員の方々がその能力をいかに発揮できる職場環境なのか、もしくは配置ですね。議員の分際で人事に口出すつもりは毛頭ございませんけども、10年も議員をやっていると、ある部署で生き生きとして働いていた方が、今までのスキル全くないところっていうところに。経験を積むためかなという思いでも見ますけれども、得意そうな分野に戻って来る気配もないだとかってというのは何なんだろうなというものを、すいません幾つか散見してしまうのですよ。人事の中に職員的能力を発揮させるという観点があるのか、どうなのかという疑問すら浮かぶことも10年もやっていると感じますが、この長い10年間、合併してからの10年間のことを町長にお聞きしても無理でしょう答えは。この間、ずっと副町長として行政を支えてきた伊瀬副町長にちょっとお伺いいたしますけども。本当におこがましい、議員として人事に口出すのは。僕は本当にすいません、そう感じるのです。今言ったように。その点の部分で

私は人事関係ないよって言われてはそれまでですが、10年間も副町長として支えていらっしやる立場でございましたら、何がしかのその辺の配慮をしつつ、いろいろ考えがあつてのことなのかなと思います、その考えの部分をついでと言つてはなんですけども、この際ちょっと聞いてみようかなと。お願いします。

○副町長（伊瀬 司君） 議長、副町長。

○議長（能登谷正人君） 副町長。

○副町長（伊瀬 司君） それでは、ご指名でありますので。人事の個々のことについては触れるつもりはございません。今、職員の連携というか、今企画が忙しいので他からの応援というか、そういう話もありましたけども、確かにそれぞれの目いっぱいの中で仕事していますので、各課からその時期だけ応援というのは中々難しいと思います。現在ひとつの問題について、例えば産業連携という形で農林・水産・商工と色々な連携をしてやったりしておりますので、その職員間の連携というのはできてきているというふうに思っています。それと職員の人事の関係でありますけども、やはり我々職員というのは、いつまでも同じところで、それはプロとして専門的にやるのも1つの方法かも知りませんが、やはり3年なり5年なりで色々と部署を回っていただいて、自分を磨いていただくと。そして、将来の自分に活かしていただくと。そういうのがやはり望ましいだろうというふうに思っています。やはり、いつまでも同じところにいるというのは、やはり色々と弊害が出てきますので。例えば同じ専門職であっても、複数の方を採用して、それをまた一般の事務の方にも行ってもらって、また戻ってもらうと。そういうような循環をしながら、そして色々なことを経験してもらって、それを活かしてもらうというような方法も、これからもしていかなければいけないと思っています。一部そういう形で今動いているところでもあります。この10年間議員やっていて疑問に思っていることもあろうかと思つてはいますが、やはり専門は専門のところ確かにありますけども、一般事務職というのは3年、4年程度で出来れば色々な部署を経験してもらって、色々な風に発揮してもらいたい。そういう思いで人事をさせていただいているところでございます。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） わかりました。その3年4年の移動の中では、その移動させたことによってその人物がどうスキルアップしたのか、もしくはまだアップまでいかないのか、肌に合わないポジションだったのかだとか、そういった部分はやっておられますよね。そうして次の部分に向かっていくと、新しい異動を考えると。そういうことであれば、私も今の一般論的な答えで納得するのですが、自分この本会議場で数々物議を醸すことしやべつて来て、反省大いにしていますけれども。その自分が本当にこういう言い方はあれですけども、何か思いがあつて言ったのだらうなという受けとめ方を、今の段階ではしてもらってほしいと思います。もちろん、この後自分の調査が進み誤解だったなつてことになることもありますけども、今時点であえてこのことを三澤がふれたのは何かかなという部分では、難しい問題なので私一人の考えで動いているつもりはありませんけれども、いろ

いろ調査した結果、このことはどっかで本当はもう1、2歩入って行って、そのことによって1人でも多くの方が気持ちよく働ける職場になるなと思います、まだその確信もないわけで、今日はここまででこの部分は終わりますけども、10年間行政を補佐として支えてきた副町長、お考えがあってやっていることだと思いますけども。

これから質問の前段の方に移りますけども、まちづくりが根本的に変わっていかなくちゃいけないという時には総力結集していかねばならない。町内の人材発掘を前半言いましたけれども、職員の能力の全能力を発揮してもらいたい。そういう環境をぜひつくっていくってことも大切だと思いますので、その部分は今日はここまで。今日の質問は隠れている人材をいかに掘り出して、それに磨きをかけ今後のまちづくりに役立てて行く方策を早急に動きださなくちゃいけないなど、そういう危機感を持って三澤は質問したというご理解をしていただければと思います。以上です。1問目は以上です。

次、二問目行きます。「求める院長像ってありますか」今年度は予算のつくり方を変えてもらいました。今までのように支出に合わせて収入をつくるという病院会計の予算ではなく、根拠のある支出と根拠のある収入、それによって過不足があれば財務課等も含めて、よくよく考えた物を出してくれと、そういったふうに話し合っただけでつくられたものだということが理解したので議決いたしました。議会報告会では新しくなる部分を議会としても強調しましたが、これは関節の部分だとか。それ以外のこれまでと変わらない部分がどう変わってくるのかに関心が集まりました。この延長で考えると、行き着く先は院長のあり方だなと感じました。これまでどおりなのか、何か変わるのか。新しくなる総合病院の1つのキーパーソンである院長に対して、町長は求める院長像が私はあるはずと考えております。それを伺いたい。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは三澤議員の2点目の質問にお答えをさせていただきます。まずですね、求める院長像についてお答えする前に八雲総合病院の位置づけについてお答えし、その先に私の求める院長像があると考えておりますので、ご理解を願いたいと思います。八雲総合病院の責務は自体病院として地域に不足している医療に取り組むとともに、地域の医療機関や行政機関と連携を図りながら地域住民の健康の維持・増進を図るために、医療を安定かつ継続的に提供することだと考えております。八雲総合病院がそれに応えるためには、医師確保や必要な医療機能の整備、医療及び医療サービスの質の向上、そして経営改善が必要不可欠であります。これらの課題を解決し、地域センター病院として町民と二次医療圏、その他地域から来られる患者様から信頼され役割を果たすことだと考えております。そのためには開設者である私と病院を管理する院長は八雲総合病院をよりよい病院にするために、相互理解と相互信頼を深め、常に良好なパートナーシップにより病院経営や、医師確保対策での関係機関への働きかけ、課題について積極的に力を合わせ行動し、目指す病院の将来像を共有し病院のために一緒に努力できる人が私の求めている院長像と考えております。よろしくお願いをいたします。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） 改めて伺います。院長というポストは何のためにあるのです。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今、三澤議員の院長とは何のためにあるかという質問でありますけれども、八雲総合病院の院長は八雲総合病院の全医療、そして経営についても責任を持ちながら、病院の中ではトップとして経営するのが院長像と考えております。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） 私、株やらないので日本証券業協会会長、稲野和利さんと言っても、偉い人なのかどうか分からないですけども。非常に興味深いことをこないだラジオでしゃべったのを聞いて、書き物もちよっと読んでみたのですよ。会社の役員に新しく選ばれた知り合いや後輩に、おめでとうという言葉は私にはかけないのだと。それは私の流儀なのですが、出世の階段の先にあるのは険しい道、決しておめでたくないからです。出世するということは判断の責任がより重くなるということだ。時に応じて変化していく状況を咀嚼し、自分たちの会社の対応について素早く妥当な判断を下すことは簡単なことではない。役員として一段上の能力を発揮するために、限られた時間の中で学び続けることが必要だと。そういう大変なことなので、決しておめでたいことではないのだと言っていますが。一方でなぜ興味を引いたかといったら、会社の中、組織中には誤解する装置がいっぱいあると書かれているのですね。個室がつきます。専用の車がある。秘書がつきます。職員が傳く、それによって自分が偉かって勘違いをします。役員とは決して偉いというポジションではないのですよ。証券業協会会長、稲野和利さんはそういうお話だったのです。とても興味を持ちました。役員とは何のためにあるのか、会社の機能の1つだと、会社を機能させるための1つのポジション、決して偉いポジションではない。僕はその話をそっくり総合病院に当てはめてしまいました。僕の中ではぴったり合う。先ほど1回目の質問で町長は求める院長像というのをしっかり述べられました。そのことを佐藤院長に伝えていただけますか。私はこう考えるし、こうあって欲しい。そのことについてお話ししたことあります。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 佐藤院長と話は何度となくさせていただいております。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） 話し合う機会をいっぱい持ってくれということで、我々暮れにも議会の方で申し入れして、町長をトップにする組織をつくってくれとお願いした手前もありますから、院長とはいろんな話もしていると思いますけども。僕は先ほどの求める像について、町長の思っている院長像をお話してないという方が、これまで起きた出来事が理

解できるのです。直近の話でいきますと、医師住宅のやり方が今日に見える形で、ああいう形になるまでの、病院内での議論の過程を予算委員会でもお話ししましたが、入手してそれを何度読んでも、今回のこの質問をつくったときも町長の答弁を想定し読み返しても、今町長がおっしゃったようなことを理解、あの時点ではされていないと感じます。自分のお考えが通らなかった。そのときに病院に帰って部下の前で町長も議会も通さなくていい方法を考えろ、こういう発言をしている。これは予算委員会でも述べさせていただきましたけど、少なくともあの時点では町長が考える院長像の考えは持ってなかったと思われませんか。過ぎたことですし、医師住宅もここまで出来ていますから、蒸し返すのは、もう心を入れ替えているのだからというのであれば、それを信じたいですけども。医師住宅また変わっちゃったじゃないですか、お医者さんの負担が。この間文厚でお話聞きましたけども、病院の持ち出しをまた多くして、お医者さん家賃の大体4分の1程度で、4分の1弱ですよ。これも、もう病院内で決めてしまっているのです。病院会計の中で処理することだから院長採決で済んでいる。そういうやり方1つとってみても、まだ僕は町長の考えている院長像のお話は届いてないと思うのですよ。議会からも申し入れして町長と院長、病院内の経営のことについても絶えず意思疎通をして、少しでも早く我々議会に情報が入るようにという思いで提案したことを受け入れてもらいましたけども。結果的には今回のことには、良い方には働かなかった。相手側がそうしなくてもいいルール解釈でまた動きましたからね。医師住宅建てる時と一緒にです。ほんとは一方的に僕が喋るのではなくて、町長にもお考えを聞きながら進めるのが一般質問ですけども。あくまでも自分の考えを押し通そうという姿勢のようにはうかがえます。もう一度求めるべき院長像ってことを、しっかりそのことについてお話しした方がいいのではないですか。

○町長（岩村克詔君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今ですね、三澤議員から医師住宅等々の話がありました。求めている院長像ということで、病院に求めていることは医師確保をきちんとしながら、医療の充実、そして地域から、患者様から信頼される病院が一番の病院でありますので、それについては、しっかりと意思疎通をしながら進めていると思っています。

ただ昨年特に、経営的な赤字が出ました。これについても、今徐々に医師確保をしながら、進めていると私は感じておりますし、また私も医療の方は詳しくありませんけども、この医師確保については大学病院等々私も何度か行かさせていただきました。今年も行かさせていただきましたけれど、大変苦勞するものだなという感覚もあります。またその看護師さんの確保、やはりこれも八雲ぐらゐの地域であれば大変難しい問題だなということも、肌身で今感じているところで、佐藤院長先生におかれても真剣に医師確保もやっていますし、また医療についても一生懸命取り組んでいると思っています。ただこの医師住宅については、やっぱりお金の大小よりもやはり医師確保、そして良い医療ができることが、私は一番であろうということでもありますので、これは病院が決定をしてきたことでもありますけども、私も理解をしているところでありますので、議員の皆様にも理解をお願い

したいと思います。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤 公雄君） 敢えて町長は深入りしないようにしているのではないですか。これまでのことを考えたら、先ほど稲野和利さん、証券業協会の会長の言葉をかりて機能という言葉を使いました。院長というポストが1つの機能だとしたら、町長の求めている病院経営も含めて、町長と意思疎通を図りという部分のものが共有されてないと、彼は勘違いの装置で勘違いしたままで、俺は医師確保をやっていたら仕事を果たしたと、果たしているのだという勘違いだけで走っていたらどうなります。そう考えたら今までのことは説明つくのではないですか。機能の1つですから医師確保だけじゃないんですよ。挙げれば経営っていうものもやはり大切なはずです。自分がトップとして、病院内のトップとして機能である院長という椅子に座っているのであれば。彼が偉いから、とてもとても偉いから個室を与えて、秘書を付け、車を付け、職員がかしずいているのではないんです。院長っていう機能を果たしてくれるはずだという期待のもとに。でも院長先生は医師確保が俺の仕事だという勘違いだけでできているのです。経営の部分が抜けている、職員が気持ちよく働く環境をつくらうだとか、いろんな付随してくるものが抜けているんです。

どうです、そう考えたら説明つきませんかこの1年。だから悪くないの、佐藤院長先生は。ゴマすりみたいに言っているかも知れないけれど。だって勘違いさせちゃっているのだから。岩村町長だけじゃないですよ、先代の川代町長とうちの小林議長がどうやって佐藤院長先生に三顧の礼で迎えたか。詳細は伝わっていませんけども、きっと誤解させてしまったのだと思う。医師確保すれば俺の仕事は事足りると。違うでしょう。やはりここはちゃんとお話してね、経営のこと抜けていますよと。職場環境をちゃんと働きやすい空気つくるのも大切ですよだとか。その他いろいろ院長として果たさなきゃいけないお仕事をもう1回お話した方が良いのではないですか。病院が新しくなるのですから、顔ぶれは変わらなくても気持ちは一新しているんだよと、町民にアピールしたいですよ。是非ですね、勘違いしている部分を解きほぐして、もう一度、院長という機能はこういう仕事をやってもらいたいのだというご理解を伝えてください。どうですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 三澤議員からですね、いろいろ院長の決定する時の話とかいろいろ出ましたけども、今院長先生ともいろいろ話し合いをしています。決して院長先生は医師確保だけが院長の仕事だと思ってやっていると思っていないし、良い医療、そして経営的にも真剣に取り組んでいると私はそう感じています。ただ、やはり我々のサポートも大変難しいものがありますので、それを含めてこれから密に、議会から提案された機能を十分に生かしてこれからやってまいりたい。そういう思いでありますので、ご理解を願います。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） もう、新しい総合病院が完成する。目の前というほどではないんですけども、いろいろな準備期間を考えると、やはり新しい病院がオープンするということに向けて加速度的にいろんなことを片づけていかないといけないと思います。是非ですね、箱だけ新しくなったのではないと。人心一新という言葉は人が変わることを一般的に指す部分だと思いますけども、医師招聘の部分は我々に手の届かない部分ですし、町長も難しいことは十分分かっている。それであれば言葉のとおり人の心の部分は一新している、変わっていると。せめてそういう訴えが町民に届く環境をつくらなければ、今回8億4,000万のマイナスの予算。これ以上足が出るのなら、僕らも町民に対して合わせる顔がないですし、病院が第一に町民に合わせる顔がないと思います。顔ぶれは変わらないけども中身は違うよと、胸を張って言えるようなデビューになるよう、残りの時間しっかりとこれまでの経緯に反省すべきところはじっくり反省し、行動力が足りないと思うのであれば行動を起こしても良いですが、独断専行ではなく、ぜひ町長または議会、周りにじっくり諮ってですね、物事を進めるよう病院に戻ってほしいというか、あってほしいと。残りの時間をそういうふうに使ってもらいたいと思いますけども。町長並びに院長の側において、この町長の思いを伝える立場である、私はそう思いますけども齋藤事務長にも、今の一連のお話ずっと聞いていただいたと思いますけども、ご理解された上でどう対応していくのかというお答えをいただきたいと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今ですね、これから新しく今年の10月の末には本館棟が完成し、そして12月ころを目途に医療体系が揃うのかなと。そしてまた、来年秋ごろまでに旧本館棟解体をし、外構等が完成するのが来年の秋ということですので、三澤議員がおっしゃっているとおり、やはりいくら病院が新しくなってもということも、住民からも多くの意見をいただいておりますので、院長先生並びに病院のスタッフと一緒に議事とご相談をしながらですね、よりよい医療の充実に向けて取り組んでまいりたいと思いますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○総合病院事務長（齋藤眞弘君） 議長、総合病院事務長。

○議長（能登谷正人君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（齋藤眞弘君） 議員の質問にお答えしたいと思います。おっしゃるよう開設者である町長と管理者である院長の意思疎通、相互理解、1カ月ないし2カ月に1回ほどは直接会って、または副町長が来ていただいているということで、町側と病院側の意思疎通については、この1月からは結構頻繁にやっているといます。

10月末のオープンに向けて、今院内では箱だけではなく、確かにいるメンバーは医療技術集団そうそう変わるわけではないんですけども、対応についてまたその内容について、今鋭意検討中です。議員おっしゃるとおり、町の皆さんに箱だけじゃなくて、中身もかわったよと言われるような、今後とも総合病院としての役割を果たすために頑張っていく

いと思っておりますので、今後ともご支援の方をよろしく申し上げます。

○5番（三澤公雄君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 三澤君。

○5番（三澤公雄君） 町民が病院に対する思いのほんの一部分を自分なりに言葉を選びながら喋ったつもりではございますが、まだまだ町民の熱い病院に対する思いは表現し切れない部分があったと思います。それに加え、表現が適切だったかどうか悩ましい部分もありましたけども、是非この喋った内容のですね、真意の部分は誤解なく伝えていただきたいと思います。それだけです、終わります。

○議長（能登谷正人君） 以上で三澤公雄君の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時05分

再開 午前11時17分

○議長（能登谷正人君） 休憩以前に引き続き会議を開きます。

次に赤井睦美さんの質問を許します。

○8番（赤井睦美君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 赤井さん。

○8番（赤井睦美君） 雇用確保は急務ということで質問させていただきます。この質問は私だけじゃない、ここにいる人みんながそう思っていると思うのですけれども。八雲町でも雇用確保ということで、企業誘致とかに町長は特に取り組んでいると思います。また、子育て支援として、入学前の幼児の医療費無料化や一時預かりも行われています。しかし、5年後、10年後を考えたときに、本当に若者が町内にとどまることができる雇用の確保がなければ、子育て支援も無駄になってしまいます。今、地方人口ビジョン及び地方版総合戦略策定事業の中で検討はされていると、先ほどお話がありましたけれども。それ以前に、これまでの1年半で町長は様々な企業を訪問し、多くの方と繋がり、八雲町への雇用を確保するため奮闘されていると思います。その取り組みの実績と、取り組みを通し今後どのような展開が考えられるのでしょうか。そしてさらに、外に目を向けるだけではなく、今ある企業の育成に力を注いで魅力ある企業へと成長させることで、子供たちの地元志向を促すようにすることも大切だと思います。

昨日、教育長のお話にも出てましたけれども、日大の学生がいらしたときに、その学生の力を借りて八雲町の小中学生や高校生に森の大切さなどを伝えるとか、あとインターンシップで接することのできない職業の人たちに、学校でいろんな職業の魅力について話してもらおうなどして、最終的に就職を決めるのは子供たちですけれども、選択肢を広げてあげるといっても、八雲町に夢と希望を持てるそんな支援が必要だと思いますけれども、町長はどのようにお考えでしょうか。

質問は1個なんで、それを2つに分けて聞いています。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは、赤井議員の質問にお答えいたします。

町民が夢を持てる活力あるまちづくりのための政策の1つとして、企業誘致は雇用の場の確保や定住促進という観点から、重要なものと考えてございます。私は町長に就任して以来、既存の立地企業を含めトップセールスマンとして、これまで様々な企業を訪問し、情報収集を共有してまいりました。しかしながら、国内企業の生産拠点が海外へシフトしている状況の中で、八雲町への企業誘致は非常に厳しいことが現実でもあります。こうした状況を踏まえ、今後とも引き続き企業訪問を行い情報収集を進めるとともに、八雲町の基幹産業である農林・漁業を中心とした一次産業が元気になることが、関連地元企業の安定・成長への繋がりと、雇用創出や定住促進が図られることから、町内資源を有効に活用した八雲町のブランド化促進を継続して取り組んでまいります。

また、昨年6月から、いわゆる小規模基本法及び小規模支援法が制定されたことを踏まえ、町内小規模事業者の成長発展と安定的な雇用の維持等を含む、事業の持続的発展のための政策を、商工会とともに検討してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

子ども達の進路の選択肢の拡大と支援についてであります。八雲町の将来を担う子供たちが夢と希望を持って将来に向かうことは、子ども達と町の双方にとって大切なことと思っております。これを進めるためには様々な手法があると考えられますが、その1つとして、議員ご指摘のとおり八雲町と交流のある日本大学等の外部教育機関の協力を受けながら、実施していくことも有効な手立てであると共感をいたしております。日本大学については演習林が八雲町にあることから、これまで交流を重ねてきており、毎年多くの学生が来町をしております。

また、昨年度には旧大関小学校を買い取りいただいて、活動拠点とされるなど、八雲町との交流もさらに深いものとなってきており、大学側からは、何らかの機会に町内子供たちに対する講演会や授業への応援なども検討されている旨、お聞きしております。さらに、今年度から取り組んでおります上智大学との交流では、9月に学生が来町をし、八雲町を知り、町の方と交流を図るプログラムが検討されており、その1つとして、八雲高校の生徒との交流を試行する予定であります。ご存知のとおり上智大学は国際感覚も豊富で、ボランティア活動も盛んであるため、大学生と町の子供たちの交流プログラムの中で、ともに八雲町の文化や産業を見つめ直す機会を提供することは、町内の子供たちにも良い刺激になるものと期待をしております。

いずれにいたしましても、八雲町の子供たちに社会の様々な事柄を知る機会、体験できる機会を提供し、その将来像として町内における企業や産業の担い手として活躍をしていただくために、こうした機会の提供の方法などについて、今後教育委員会と連携を図りながら検討してまいりますので、よろしくをお願いいたします。

○8番（赤井睦美君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 赤井さん。

○8番（赤井睦美君） 雇用の創出というか、雇用確保の具体策はということで、25年の12月と、それから若者の雇用ということで26年の6月にも一般質問をしています。その後、牧野議員が26年の9月に人口減少対策どうするんだということで質問されて、そして、斎藤議員も地方版総合戦略の策定で、人口減少どうするんだということで質問されていて、その答弁書を全部見たんですけれども、今の答弁の中で新しく出たのは上智大の協力だけで、あとほとんど、なんかもう全部25年の時の答弁とあまり変わらないんですね。町民からは、私達も議会報告会をやっているような意見を聞いたんですけれども、町長はもっとこう、外にばかり行かないで、もっと地元をしっかりと見るべきじゃないかって、地元の人としっかりと話すべきじゃないかっていう意見もありました。

先ほど企業誘致はもう海外に進出していて難しいって、もうそれはみんなも分かると思いますけれども。であれば一次産業の元気、一次産業の活性化を図って雇用創出とおっしゃっていましたがけれども、具体的に今どんな取り組みしているのか。そして、そのことをどうやって町民に知らせるのかってということも大事だと思うんですね。

先ほど役場の仕事のことも話出ましたけれども。やっぱり町民とともに作り上げるということが大事なので、もっともっとこんな取り組みしてて、こんなふうにはしていますよ、皆さんご意見いかがですかって、そんな視点もすごく大事だと思います。その中で、子供たちにとっての先ほど出た上智大と八雲高校の交流があるとおっしゃっていましたがけれども、今年の3月に卒業して八雲高校から八雲町に就職した子が多いんですね、今年は。それは八雲高校の先生方も企業にいろいろ回って、こんな仕事があるっていうのを探して、それを子供たちに伝えたというのものもあるんですね。

私13歳のハローワークという本が出た時に、もう随分前ですけれども、これの八雲版があるといいなと思ったんですよ。八雲町の企業はこういう仕事をしていて、こういう資格があると働けますよ。そして、そういう資格はどこどこで取れますよとか、そういうことを。そうすると高校生とか中学生が将来こんな仕事も良いなって思えて、いろんな選択肢が広がる。そんな方法がいかないと。お金がないから冊子に出来ないとなったら、今もうパソコンの時代ですので、ホームページにそういう八雲町の企業紹介みたいなことで、本当に詳しく載せていただくと、高校生がそこから選択して、こんなことも良いかなとか、そんなことができるんじゃないかと思ったんですけど。以前の質問の時にそういうお話をちょっとした時に、ハローワークはいっぱい情報を持っているけど、役場ではあまり情報ないっておっしゃっていたんです。情報を提供するというのは当然、八雲町に就職して残ってもらいたいということでやるわけですから、その仕事の分担として、これはハローワークの仕事だとかそういうことではなくて、八雲町として絶対雇用を確保して、子供たちに残ってもらうんだ。または専門学校行ったり大学行ったりしても、戻ってきてもらうんだという、そういう強い思いで、そういうものを作っても良いのではないかと思うんですけれども。いかがでしょう。

○商工観光労政課参事（藤牧直人君） 議長、商工観光労政課参事。

○議長（能登谷正人君） 商工観光労政課参事。

○商工観光労政課参事（藤牧直人君） ただいまの重ねてのご質問でございますが、まず取り組みの件につきまして、私ども商工担当課といたしまして、平成24年度から能動的な商工振興策の展開ということで、私この役場に参りましてから、最初は観光振興という切り口で入りまして、現在その後、丘の駅の開設。それにパッケージングするような形で、昨年度から町内資源の高付加価値化ということで物産振興。いわゆる俗称ブランド化と称する事業を展開しております。また町長の答弁でもございましたとおり、昨年度、中小企業育成の枠組みを変えるということで、経済産業省の方で小規模企業振興基本法というのが制定されております。その中で、これまでの企業の右肩上がりではなく、地域を支える小規模企業に光を当てて、持続可能というキーワードで新しい施策が展開されておりますが、そこで中心となるのが地域の商工団体いわゆる商工会議所、商工会。こちらの機能強化を含めて、町内の中小企業の育成をするという方針のもと、現在商工会では将来に向けての計画策定というものを開始されております。当然、行政である私ども商工担当課といたしましても、一体となってその計画づくりに連携してまいりたいつもりでございますし、現在作業も行っております。

その中で、これまでは町内企業の育成ということで、個別の振興をやりながらいろいろと枠組みをつくってきたわけですが、議員おっしゃるとおりトータル論として、まず今後の中小企業、特に小規模ですね、八雲町内に数多くある小規模企業の持続可能な育成というものを視野に置いて、一般施策、これ個別各論の施策ではなく、大きな枠組みを作るために今作業してるということで、ご理解をいただきたいと思っております。

また、町内の企業の紹介ということでございますが、雇用の観点というよりもですね、我々中小企業者の育成、いわゆる町内の企業がこういうところがあって、こういう得意技というか、ものがあるですとか、そういうことに関しては非常に産業振興という意味で共感するものがございますので、今後中小企業育成の中でそういう手法をとって出来るか検討してまいりたいなと思っております。

以上でございます。

○8番（赤井睦美君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 赤井さん。

○8番（赤井睦美君） 前の答弁の時に町長が、中小企業の中でも雇用の数を増やしてもらおうとあって、そういうことをおっしゃっていましたがけれども。今のその中小企業の育成という中に入っていると思っております。あと、前に新聞にも出ていましたが、板金の体験とか、そういうのもやっていたと思っておりますけれども。参加される子どもたちにはよく分かるけれど、そうじゃなくて本当に中学生・高校生に八雲町の魅力を伝えてほしいというのが一番の願いです。それは働く人たちが生き生きと働いているという姿が、やっぱり八雲町って良いんだなというところに帰ってくると思うので。

教育委員会制度も変わって、町長が今度教育委員会会議にも出られますよね。だから本当に、八雲高校に今下宿だとか通学費で支援していますけれども、そこで終わってしまったらこの支援のお金が活かされなくなってしまうので、その支援のお金をより良く活かす

ためにも、その全員でなくても勿論良いんですけども、八雲に残って就職してもらうための支援も継続して行わなければ、なんかこう高校が間口減になりますよ、危ないですよっていうと支援。就職いないですよっていうと支援って。こう先ほどトータルでとおっしゃっていましたが、本当にこう、今までは部分、部分の対応しかしてなかったと思うんですね。ですから、その教育委員会会議に入られたと同時に、本当にトータルして仕事を子供たちに八雲町の魅力を伝えてほしいなと思いますけれども、いかがでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 本当に雇用確保というのは、本当に今八雲町にとって大切なことだと考えております。赤井議員から町長は企業誘致とかよそから企業を連れてくるのに一生懸命で、町内の企業についてはもっと力を入れるべきだという話がありましたけど。私は企業誘致も力をいれてますけれども、町内の一次産業の活性化等々もですね、今一次産業の酪農家やまたは畑作、そして農業・漁業の人達と一生懸命話をしながら、何をどういう形で町も支援をしていけば良いのかってことも、今話し合いをしているところでありませぬ。ただ、この間ハローワークと八雲町の求人に対していろいろ話し合いをしたところですね、今八雲町の求人は 1.3 あるそうであります。やはりこれはですね、子供たちの求めている職業と八雲町の中の産業・企業の求めている人材との差があるのかなという話し合いがこの間ありました。確かにですね、一般的に今求人が多いのは、やはり建設業だったり工場の勤務だったり、そんなものが多いのかなと。その辺がですね、大変まだまだこの地域であれば、八雲町は大変高い求人率ですよという話がありました。ただ、どうもですね子ども達が卒業する時には、やはりそういう職になかなか就かないということもありますので。

今、赤井議員がご指摘のとおりですね、やはり八雲町を愛し、そして私たち含めて働く人をですね、魅力あるようなものにしていかなければならないということでもありますし、また、これから商工業者に対しましても、やはり自分一人で仕事をするのではなく、雇用が産まれるような、そんな商売に育成していくべきではないかという思いもありますので、これから議会と住民と一緒に、八雲町の雇用対策については、取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

○8番（赤井睦美君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 赤井さん。

○8番（赤井睦美君） この総合戦略の話が出る前から、やっぱり雇用をつくらなければならぬというのは全国的にあって、火力発電を作って雇用をしようという町もあるし、木質バイオマスでエネルギーを作って、雇用を創出しようってところもあるし、市民ファウンドで太陽光で電力会社を作って雇用しようって、いろんなやり方をいろんな町がしてますよね。

その中で、本当に奇跡の村って言われている長野県の村で、子育て支援の中で、まず 2002 年から小学校 6 年生まで医療費が無料化になって、2004 年には中学 3 年生まで無料、2010

年度からは高校3年生まで無料。そして保育料も1999年から10%ずつ段階的に下げていって、今は半額になっていると。さらに義務教育費の給食費も3割、4割、今は半額。そして入学祝いとして小学生には2万円、中学生には5万円。出産金は2人目は5万円、3人目以降は20万として、子育てに対して7億円の子育て応援基金をやっている村があるんですね。

その村はどうしてこんなにお金があるんだろうと思ったんですけども。町長が本当にその村の人たちと真剣に話し合っ、自分たちの出来ることは自分たちでましよう。勿論村ですから八雲と違って面積も小さいし、下水道の長さから道路の長さからすべて違いますけれども。下水道やる時に国からの補助金をもらって下水道をつくるべきか、それとも集落排水っていうんですか、それでやるべきかって半年も話あったそうです。それで、ランニングコストを考えて将来的に払わなきゃいけない自分たちのお金を考えた時に、下水道はつくらないと。皆で集落排水にましよう決めて、そしてそこでお金をまず削るとか、道路も自分たちで直すところは直ましようっていうことで、勿論大きい道路はましませんけれども、小さい道路は自分たちで直すとか。それと若者の雇用のための家を建てるんですね。そこは3万円程度の家賃で入れるんですけども、約束として地域の活動に参加する、消防団に必ず入るとい、そんな約束で、みんなで地域を支えていこうという、そういう村があります。当然そこは統計の関係も2040年ですか。その時の人口も減らないというふうに出ています。

ですから、私は何でもかんでも役場がやるんじゃないくて、町民としっかり話し合っ町民の力を、先ほどは企画課長さんが町民と話す機会をどんどん設けますってお話ししてましたけれども、本当に役場がやってあげますよっていう時代は、もうとっくに終わってるので、ここは町民の力でやりましようという、そういうシステムを作っていかなければ、やっぱり何をするにもやっていけないと思うんですよね。その辺、町長は町民としっかり話ししていって、初めからおっしゃっていますから。そういうふうにしたことをどんな形で町政に活かして実践していくというふうに、どんな形でましようとしているのか、お伺いしたいです。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今、赤井議員からですね、町民としっかりと話をするということでありま。私は就任して以来、各町内会そして産業団体とも幾度となく話をしながら進めているところでありま。これからについては、まだまだいろいろな部分で、どういうふうに進めていくかということは、具体的にはなっていないんですけども、また議会の皆さんと相談をしながら進めてまいると思いますので、ご理解をお願いをいたします。

○8番（赤井睦美君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 赤井さん。

○8番（赤井睦美君） 毎回、その進めていくのは良いんですけど、やっぱりそれをどうやって町政に活かすかということを具体的に考えないと、いくら話しても駄目だと思う

んです。活かされない。だからやっぱり具体的に、話したことをどうやって町政に活かしていくかということ、しっかり町民に訴えてほしいと思います。

その1つに、先ほど町広報とかホームページを活用してって町長おっしゃっていましたが、町長のホームページの挨拶って、去年の6月から全く変わってないんですよ。やっぱりそこがもうおかしいと思うんです。やっぱり町長として、例えばですけど、産業団体と話ししたのであれば、こういう意見が出てこういうふうに活かしていきたいとか。必ずやりなさいということではないけれども、そういうことを町民に訴えることで、ああ町はこういうふうになっているのか、じゃあどうにかしなきゃいけない自分たちもっていう、そういう町民の心をこう何ていうのかな、まちづくりに本当に活かしていけるようなやり方をしなければ、やっています、やっています、やっていますって言っても、全然こう、町民の方には伝わってこないんですよ。ですから町広報にも、昔どなたか町長の似顔絵が描いて、こんなふうに取り組んでいますって、どこかにコラムがあったような気がするんですけども。町長もやっぱりホームページに自分の意見をね、他所の町だと町長室からってなって、町長からこう毎月のように違ったことが書かれていて、今町長こういうことを考えて、こういうことを取り組んでいるんだなって分かるようなホームページもありますから。ぜひ、お忙しいので、出来なければどなたかに頼んで、1年間同じというのはおかしいと思うんですよ。もうやる気を感じないというか、まちづくりに対して本当に何を考えているのかっていうぐらいがっかりします。そこら辺もやっぱり出来るところから、どんどんどんどん町長が訴えていかなければ、町民も協力のしようがないと思うんですよ。ですから、もっともっと話し合ったことは勿論どんどん発信していかなければ、町民も協力しようとしても仕方が分からないというふうになると思うので。その辺はいかがお考えでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今、赤井議員からいろいろ指摘がありました。

本当にホームページについてもですね、そうだなということで今実感をしています。その辺を踏まえて、これからはホームページ等々で皆さんに分かるようにですね、具体的に示しながら進めていく考えでありますので、ご理解をお願いいたします。

○8番（赤井睦美君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 赤井さん。

○8番（赤井睦美君） より良い町にしたいというのは町民全員が思っていることで、本当にいい町にしたいと思っています。

勿論、役場職員も思っているという事はよく分かります。だけれどもそれはお互いに発信しなければ、わがままな町民だと言っている方もいるし、逆に役場職員は何もしないっていう町民もいるし。そこら辺はやっぱりそうじゃなくて、みんな一緒に考えているんだという形をつくっていかなければ、どんなに立派な計画作っても、それはもう絵に描いた餅になると思うので。本当にこう、やったら発信する、発信したらそれに対する反応も

しっかり受けとめて、またそれについて発信するという、そういう人口もどんどん減っていくんですから、一人一人と繋がる、そんなまちづくりにしていったら、雇用の確保をしていただきたいと思いますけれども。最後に町長の覚悟を聞いて終わりたいと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今、赤井議員から八雲町民もみんな雇用確保または人口減少に対しても危機感を持っているということでもあります。本当にそうだと私も実感してますし、私もですね八雲の中では一番このことについては取り組んでいかなければならない問題と考えていますので、これからも議論をし、そして情報を発信しながら、皆さんと共有しながらこの活性化に向けて頑張りたいと思っていますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（能登谷正人君） 以上で赤井睦美さんの質問が終わりました。

次に横田喜世志君の質問を許します。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 一般質問2日目、最後の質問になります。人口減少や雇用確保、病院のことなど、頭の痛いことかと思いますが、希望の持てるお答えを期待して質問いたします。

1つ目の質問、避難路整備の今後について。熊石地域の避難路に手すりが必要だとして、町内会の協力により整備が進んでいます。町財政に負担をかけずに、町内会で出来ることは自分たちで行っています。しかし、急傾斜なところや岩で打ち込めないところなどが見受けられる。そういう町内会の人たちで施工できない場所などは今後どうしていくのか、伺いたいと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは、横田議員の避難路整備の今後についてのご質問にお答えをいたします。熊石地域の避難路につきましては、平成20年度に町と町内会連絡協議会が協力し、地震や津波が発生した場合にいかに自分たちの身を守るのかを協議し、各町内会ごとに独居老人宅や避難所、高台の畑や山に通じる道路や小道を避難路として決め、それらを記載された防災マップを作成いたしました。町が町内会への避難路の自主整備に係る資材の提供に至った経緯は、町内会で高齢者や子ども、女性の方々がより避難しやすいよう改善しようという話の中から、何もかも行政にお願いするのではなく、自分たちで出来ることは自分たちのできる範囲でやろうということになり、町内会連絡協議会の総意として、町に単管パイプ等の資材の提供を要望しようとしたこととなったものであります。町といたしましても、既存の避難路を自分たちでできる範囲でということでしたので、資材を提供することと決めたものであります。ご質問の急傾斜や岩盤への穿孔など、町内会が独自で施工できない場所等の自主整備については、町内会が非常に大変な思いをして整備するとか、誰かに依頼してまで整備するということまでは想定はしておりません。また、

現在避難路としているところについては、これまでも普段の生活に使っていた道路等を、より使いやすくするという取り組みであり、新たに避難路を開設・設置するために資材等を提供するというところまでは考えていなかったところでもあります。

町では昨年10月に、熊石地域で地震津波の発生を想定し、避難行動に特化した地震津波避難訓練を町内会の協力のもとに実施をいたしました。参加者は各地域ともおおむね10分以内で想定した避難路を通じ、避難場所に到着するなど、現在の避難経路での避難状況等を再確認したところでもあります。今後も町内会と連携をして、町内会単位による災害途上訓練や避難訓練の実施を検討するなど、様々な場面で防災に対する意識を醸成させ、自主防災組織の結成を促すとともに、それらの防災活動での意見や要望等をともに確認、協議しながら防災対策を進めていきたいと考えているところでございますので、よろしく願いをいたします。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） でも地域ではあれですよ、そうやって定められたというか、避難場所っていうのをここだよと言われてるわけですよ。言われてるっていうか、訓練ではそこを使わなかったのか、使ったのかははっきり私も知りませんが。地域ごとに避難場所があるわけです。そこに手すり等が必要だということで、町内会の善意により町内会で設置をします。だから資材の提供をしてもらえないかという部分で始まったのは分かっておりますが、ただ、たまたま資料が手に入りましたが、これ避難路の自主整備に係る資材の希望数量というのを取っているんですね。この希望数量、希望してなかったところもあるらしいんですが。例えば希望したところでも、自分たちで設置は出来ないって言う場所があります。じゃあなぜ希望をとったのか。で、なおかつ希望数量だけ与えれば、これはもうこと済んだと思っているのか。なおかつ、これに見合うだけの予算措置をしませんよね。その辺、どう考えているんですか。

○地域振興課長（牧 茂樹君） 議長、地域振興課長。

○議長（能登谷正人君） 地域振興課長。

○地域振興課長（牧 茂樹君） ただいま横田議員さんの方から、希望している町内会でも、設置できない町内会も希望しているのではないかというような質問かと思えます。

希望調査につきましては4月に全町内会の方に避難路の自主整備に係る資材について、希望の調査を実施したところでございます。8地区の町内会の方から希望が上がってきてございます。当初から避難路の整備につきましては、町長の方からもお答えしましたように、自分達で出来る範囲で、出来るところは整備しようというようなお話の中で希望をとらせていただいたところでございます。そういう中で出てきた8地区の中では、出来ないというような話はございませんでしたし、この8地区にこの数量を確認しているところでございます。出てきた資材の提供の要望があったところが出来ない、自分たちでは出来ないんだけどもというお話は、直接担当の方には来てございませんけれども、その辺の話があるようであれば、確認の仕方も悪かったのかなというふうにして思っております。

す。今のところ、担当の方にはそういうお話はございませんでした。また、予算措置につきましては当然、出てきた部分につきましては、今年予算を計上しました予算では足りない状況にはなっております。この

(何かいう声あり)

○議長（能登谷正人君） 静かに。

○地域振興課長（牧 茂樹君） 既存の予算では足りない状況になってございますけれども、これを計画的に進めていきたいというようなことで、アンケートをとる段階でも町内会の方をお願いしながらアンケートをとったと。希望数量を確認したということになってございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 私の聞き及んでいる部分では、例えば資材の取りまとめのやり方では、あなたのところの町内会の避難路にどのぐらいの単管がいるのっていう程度の聞き方。私が聞いている範囲ですよ。そこには自分らで出来る、例えばさっきの町長の答弁のように町連協の会長さんがね、そうやって協力しますよと言ったのを頼りに仕事を進めてるんじゃないですか。町連協の会長さんが全部の町内会に設置するわけじゃないんですよ。各町内会がやらなきゃない。その現状も踏まえずに希望数量だけとって、現実ここにあるように既存予算10万、希望数量に見合う金額が66万7,000円もかかる。例えば希望をとったからすぐ支給してくれるって思っている町内会もあるかもしれません。それには対応できませんよね、これだと。例えばその中の話で、8つの町内会から希望数量を取りました。そのうち3つの町内会やりますという話が聞こえてきてます。それだけでも予算10万をはるかに超える。じゃあ現実的に出来ませんよね。そういう住民と担当課のなんか意思疎通がちゃんと取れてないように思うんですけども。ここまでの知り得た範囲で言ってるわけですが、どうも前々からそういう傾向が強いですよね。なおかつ、出来る出来ないということ自体も、定かじゃないことをさも出来るようなことを発信するというのは、いかがなものかと思いますが。例えばこの希望数量に見合う予算、先ほど計画的にとかっていうお答えで誤魔化したんだろうけども。27年度に補正でも組むんですか。

○地域振興課長（牧 茂樹君） 議長、地域振興課長。

○議長（能登谷正人君） 地域振興課長。

○地域振興課長（牧 茂樹君） 足りない予算に見合った部分の予算について、補正等で対応するのかというようなご質問かと思っておりますけれども。この足りない部分につきましては、内部で協議したいというふうに考えてございます。ただ、いずれにしても一度に希望数量を、全数量を提供できるのかどうなのかということも検討をしながらですね、補正も含めまして検討したいというふうにして考えてございます。以上です。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 検討するんであれば希望数量だけでなく、現実の調査からも必

要であろうと思いますが。再度、設置できるかできないかを含めて、調査をしていただきたい。それと、ここ8地区の他に私の聞いている範囲では、プラス3地区、今回希望を出してないそうです。だからその設置できない町内会というのは、自前の建設課か何かを使って整備をするつもりがあるのか。それで、お金を少しでもかからない方向で考えていくのか。再度お願いします。

○地域振興課長（牧 茂樹君） 議長、地域振興課長。

○議長（能登谷正人君） 地域振興課長。

○地域振興課長（牧 茂樹君） この補正等に向かいまして、再度町内会の方で必要な部分だとか、自分たちで出来るのかどうなのかということ、再度調査してはということでございますけれども。前段、町長の方からもお話ししましたように、町内会が自分たちで出来る範囲の中で、出来るものということを中心にスタートした避難路の自主整備に係る資材の提供というようなことでございます。しかしながら、最近町内会自体が高齢化、町内会の構成自体が高齢化しているだとか、女性の方が避難路についての整備をしているだとか、そういうようなお話も聞いてございます。そういうような状況も確認しながら、役場の方でも出来る部分については支援はしたいと思っております。

全て町でやるだとかそういうことにもなりませんけれども、町内会と連絡を密にとりながら、必要な部分だとか町内会ができる部分なのかだとかを、連携をとりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 避難場所なんだから、いつ災害が来てもおかしくないんです。その場をやっぱ整備しなきゃいけないと、なるべく早く。そのために町内会自身もそうやって動いてくれたんだと。それにちゃんと答えてないんじゃない。これから要望のあったところだって、整備してほしいから要望出したわけでしょう、整備したいから。でも現実に自分らの力では何ともし難いことがある。ここを何とか面倒見てもらえないかっていう話も出てるわけですよ。そういうやっぱり煮詰めたものを出してくださいよ。関内地区で自主整備した、新聞に載ったことが取りざたされて、進んだようにしか思えません。ちゃんと町として避難路の整備というものを考えてやっていただきたい。自主的に出来るところはどのくらいのことで済むのか、出来ないことはどこまでやってあげなければいけないのか。そういうきちとした調査があつて初めて、予算云々という話になるんじゃないですか。今流用できる予算10万円ありますって言ってる話じゃないですよ。で、いつまでに調査が完了しますか。

○副町長（植杉俊克君） 議長、副町長。

○議長（能登谷正人君） 副町長。

○副町長（植杉俊克君） ただ今のご質問であります。

まずですね、経緯をお話ししたいと思うんですが。今町長からもずっと、それから課長

からもお話ししておりましたように、町内会と20年度にですね、自分たちが出来るところについては、自分たちも協力しながら避難路を整備していきたいと。で、なおかつ単管等が必要であれば、町の方にそのものを出していただければ、私達ができる範囲でやりますよというお話からスタートしたというように聞いておりました。そういったことがありまして、新聞等でも報道されたようにですね、先行して町内会としてはそういうのを全体として、全町内会で協力したいということであったようですが、先行してやった地域があって、新聞等にも報道されました。そういったことがあって2、3の町内会から、私たちの町内会も実はやりたいということでございまして。当初その10万の予算も無かったものですから、そういったお話があって今年度10万円の予算化をさせていただいたということがあります。

しかし、今お話あったように今調査をした結果、この調査に至る経緯はですね、その2、3の町内会のやりたいという話があった時に、10万円ということで予算を計上させていただきました。その後、今年になってからですね、私達のところもやりたいという話が出てきたりして、希望する町内会が増えてきたものですから。それであればどのぐらいの町内会で希望してるのか。そういったものを実態を掴むということもあって、調査をさせていただきました。その結果、ここにあるように横田議員さんも恐らく資料持っているんだと思うんですが、8つの町内会あるんですが、結構な額の希望があったということでもあります。しかし今、2、3の方から希望があって予算化したということでありましたので、そのところには予算の範囲で何とかやって、それからこの希望調査で上がってきた数、あるいは場所、それから自分たちで先ほどから言われているように出来るのかできないのか。そういったところも検討をする、現地で調査するというところに内部で協議していますので。それには、いつまでということは明確にこの場では答えられませんけれども、出来る限り近い日にちの中で調査を終えて、その後、場所等も確認した結果、この残るものはどうするかというのも内部で協議させてもらって、今後の進め方をはっきりさせていくということを今考えておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 日にちの限定って私の得意技だと思っていたら。それはまあ置いておいて。とりあえずは早急に取り組んでもらうと。なるべく早い段階で、これに関して補正を組むのに反対な議員などというのはいないはずですので。補正を組めるのなら早々に。

（何かいう声あり）

○2番（横田喜世志君） とりあえず、お金は使いようなんです。生きるためになるように使っていただくのであれば、誰も反対はしないです。ということで、早い段階にやってほしいと思います。

2つ目の質問に移りたいと思います。

○議長（能登谷正人君） 横田君に質問の最中ですけども。ちょっとお昼だいぶ過ぎまし

たので。10分過ぎましたので、ここでお昼にして次の午後からということに出来ませんか。

(何かいう声あり)

○議長（能登谷正人君） 駄目。いいですか。いいですか。それじゃあ我慢して続けてやりますので、なるべく簡潔にお願いします。

(何か言う声あり)

○議長（能登谷正人君） じっくりやってください。

○2番（横田喜世志君） たまたま今日傍聴者も多いので、傍聴者の希望もあり、続けさせていたいただきたいと思います。

八雲病院存続に向けた取り組みについて伺いたいと思います。独立行政法人国立八雲病院機構は、八雲病院機能移転に関する基本構想を出しました。その基本方針の中で八雲総合病院が担える部分やいこいの家など、町が協力できる部分。八雲養護学校の特別支援教育が行われていることなどが見受けられない内容でした。医療の充実、医療環境の改善を図るという内容です。でも、これはなぜ八雲病院でできないのかという明確な理由にはなっていないと思います。そこで、八雲病院存続期成会を始めようとする地域との連携を強めて、存続を訴えていかなければならないと思いますが、町の働きを伺いたいと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは横田議員の2点目の質問、八雲病院存続に向けた取り組みについてお答えいたします。独立行政法人国立病院機構は6月3日、八雲病院の機能移転に関する基本構想を発表いたしました。その内容は筋ジストロフィー患者及び重症心身障害者は高齢化に伴う生活習慣病などの合併症の増加が見込まれており、現在の医療機能では対応できる専門家、専門医の確保、充実が困難な状況にある。また、筋ジストロフィー患者の8割が道央、道東、道北から重症心身障害者の5割以上が道南から入院していることや、道外から来院する外来患者がいることから、高齢化が進む家族や道外の外来患者の長距離移動の負担にも配慮が必要となっている。このような状況を踏まえ、八雲病院の機能を札幌市の北海道医療センター及び函館病院に移転し、筋ジストロフィー及び重症心身障害者に対する在宅を含む患者への医療の充実、医療療養環境の改善を図るというものであります。

また、移転時期は3年から4年後を目処に調整とのことであります。町といたしましては、本年2月の国立病院機構の様々な選択肢の検討という説明の後、3月中旬に八雲病院存続期成会を再開し、存続に向け動き出したところでありました。3月下旬には町と議会で厚生労働省及び国立病院機構に、いこいの家の運営など町が行ってきた協力や八雲総合病院との連携による医療環境の整備などを訴えながら、患者の療養環境の充実とともに、地域に根差してきた八雲病院存続の要望をしてきたところであります。このような中での今回の移転構想の発表は大変残念なことではありますが、医師確保問題や患者家族の移転要望もあることも配慮しなければならないと思います。今後、期成会等と相談をしながら、

その対策を検討していかなければならないと考えております。

以上であります。よろしく願いをいたします。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） その中で5月の末、期成会が開かれたと思いますが、その中で各期成会に所属というか、期成会メンバーである団体に開催をお知らせしたんだろうと思いますが、そこに参加していない団体があったと。なぜそのようになったのか、お聞きしたいと思います。

○住民生活課長（山田耕三君） 議長、住民生活課長。

○議長（能登谷正人君） 住民生活課長。

○住民生活課長（山田耕三君） 議員質問の期成会、5月18日に開いた期成会のことと思います。この期成会の案内は構成団体、全団体に1週間ほど前に通知を、ご案内をしていたところでありました。ただこれは後日になってから分かったことですが、一部の団体で、内部での文書の受け渡しに支障が出て案内を見ていなかったということが分かった、まあ後日になって分かったというところでありました。

以上であります。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） せっかく期成会を立ち上げたのに参加確認をしていないということですね。そういう期成会のあり方で良いんですか。我々議員も入ってます。そこで今さらそれがどうなったって言ったって、次にそんなことがないように活かしていただくしかないんですが。その後、6月3日ですか。2日かな。機構が町に訪ねてきていると思います。その中で、町は機構から今回の基本構想、先ほど町長が読んだ機構が発表した内容をそのまま伝えられたんでしょうが。それに対して町側の、町側というか、期成会で求める内容だとかを機構の方に伝えているんでしょうか。それをお伺いします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 6月3日の機構から説明された時だと思います。これは、期成会を含めた内容をですね、機構の方にはお伝えをさせていただきました。以上です。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） それへの反応というのはいないんですか。ただの言いつ放しなんですか。その日の機構と会う前に、全日本国立医療労働組合さんとも会っていると思いますが、その中で労働組合さん側からの要望というか、言い分も聞いていると思うんですけど、そういうことは機構には伝わっているんでしょうか。

先ほど答弁あったように、機構が言われたままのことを先ほど町長は言いました。八雲町の期成会として、今後というか、その時に期成会の立場というか、期成会に入ってるメ

ンバーというか、組織している団体もろもろの言い分はあろうかと思いますが、その団体の代表者だけの声ではなくて、ここに組織されてる人たちの声というのが私は重要だと思います。いくら筋ジス協会に所属している人たちの中でも、みんなが札幌へと思っているわけではないと。重度心身障害者の方々もそうかと思いますが。でも患者はやっぱり、親の顔色という言い方が合ってるかどうか分かりませんが、親の都合やらっていうのを気にして、本心を言わないかもしれませんけども。本来あるべき姿というのは患者のため、そこに入院している筋ジストロフィーの方々、重度心身障害者の方々にあるべきなんですよ。八雲病院はこの40年、その中でずっと継続してやってきた病院です。それを機構の都合により、無くするというのはいかがなものかと。現実には私が通告にも書いたように、今まで出来てきたことがただ単に医師の確保ができないだの、医療サービスが出来ないというか、そういうことだけで片付けられています。

八雲にも若干の問題はありましようが、総合病院があります。そういうところでの医療を機構は認めてないっていう言い分ですよ、これだと。そう思いませんか。札幌行ったら良い医療が受けられる。何で八雲じゃ受けられないの、総合病院があるのに。っていう論法に私はなるんですが。現実には、患者の方も遠い八雲よりは札幌がいいって言う部分も分からないわけではありません。これは病院の組合の方でも否定はしていません。少なくとも北海道筋ジス協会は八雲を廃止して、札幌に充実を求めていたわけではないと。札幌に拠点欲しいだけなんです。欲しいというか、自分達が八雲まで来てっていう部分を、札幌で何とかならないかというところからスタートしてるはずなんです。そういうところをやっぱり期成会として、そこに参加する団体の意向を調査すべきだし、聞き取らなければいけないし、それを基に期成会の活動をしていかなければならないと。そのために八雲町の働きが必要だと。各団体はそれなりに意思や目的があるわけですから。でもそれは、私は患者本位に考えるべきことだと思うわけです。そこで八雲町がそういうものを酌み尽くして、期成会を強化するつもりがあるのかお聞きします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今ですね、横田議員からいろいろお話がありました。まずはですね、機構から説明される前に組合の方からお話がありました。この内容についてはですね、ここで申し上げることはしませんけども、十分ですね私たちは理解をして、機構の方にもお伝えをさせていただきました。機構の方は淡々と云ったら変ですけども、淡々と説明をして行かれました。ただ、その内容につきましても、これから期成会を開いてですね、説明しながらこれからの対応を考えてまいりたいと思います。ただやはり、私たちが思うのは横田議員おっしゃるとおり、患者さんが一番いい環境で医療を受けられることということであります。この点につきましては、患者の家族会含めてですね、患者からは反対がなかったということを機構からもお聞きしておりますので、その辺は大変難しい問題だなと思ひ、これからの対応につきましても期成会とよくよく相談しながら、町と一緒に活動してまいりたいと思いますので、ご理解をお願いいたします。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 私が通告用紙を書いてから、道新さんとか一部メディアで取り上げられている部分があります。その中でもやっぱりみんながみんなというか、例えば筋ジス協会に加盟している人、みんながみんなそう思ってるわけじゃないんですよ。そこをやっぱり、機構が言ってるように廃止というのを止めるためには、そういう声を拾うしかないんですよ。それを期成会に生かすと。それで期成会の活動をしていく、町内に広めるっていうのがあってるかどうか分かりませんが、ようは八雲町を上げて存続を要望する。現実にこの話しが出た時に、八雲町の経済損失、経済に与える影響額 15 億円から 16 億円。3 日の新聞にも 1,000 人近くが町外流出などという見出しになってます。それでなくとも人口減、雇用の確保って言っている八雲に対して、これだと全部マイナスですよ。八雲病院がなくなることによって、先ほどの赤井議員の言ってたことが全部なしです。なしというか全部マイナスです、マイナスからスタートとなります。そういうことにならないように、やっぱり期成会で活動していかなきゃならないと思うんです。一部の団体だけでは、どうしてもそういう個々の声っていうものが拾いにくいわけですよ。だから、八雲町がその声を拾って、期成会を組織する団体だけの話じゃなく、進めていただきたいんですが、どうでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（能登谷正人君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 横田議員、今町に対する人口減少とか産業のマイナス面というのが、無くなった場合ということで新聞にも書かれましたけども。先ほどから横田議員おっしゃっているとおり、やはり患者さんを一番に考えなければならないということが、やっぱり原点であろうと私は考えております。ただ、この患者さんを一番に考え、そして患者さんの家族。そしてその後にはですね、やはり今働いている方々の雇用も守っていくということも必要であろうと。これを含めトータル的に期成会の中で話し合いながら、慎重に進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

○2番（横田喜世志君） 議長。

○議長（能登谷正人君） 横田君。

○2番（横田喜世志君） 難しい質問じゃないと私自身は思っているんだけど。なにか私の質問には、いつもあまり発展性のないお答えしか来ませんよね。期成会で八雲町がイニシアティブをとって、行動を起こしていただきたいということをお願いして、存続期成会ですので、存続に向けた話し合いになるようにしていただきたい。終わります。

○議長（能登谷正人君） 以上で横田喜世志君の質問が終わりました。

これをもって通告の質問が全部終わりました。

一般質問を終結いたします。

◎ 散会宣告

○議長（能登谷正人君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

これをもって散会いたします。次の会議は明日、午前10時の開議を予定しております。

〔散会 午後0時35分〕